**須藤潤「「うん系」 感動詞の韻律的特徴に関する一考察―「受け入れ」 にかかわる意味・機能をめぐって―」『ポリグロシア』15(立命館アジア太平洋大学,2008)pp.99-108.**

テーマ実習で行った相槌の納得度評価を経て、発話長や発話タイミングの検討も必要と感じたため、発話長および発話タイミングの調査に関する文献を読んできた。その中で「同意」に関する評価の難しさがわかった。そこで、今回は「同意反発」の評価に関する文献を調査した。

須藤(2008)は「うん系」感動詞の韻律的特徴について分析、考察を行っている。そして同意と不同意では「うん」の持続時間が異なり、不同意のほうが持続時間の長い「うん」が現れやすいと示唆している。ただし、持続時間は調査協力者間の個人差が大きかったとも分析している。そのため、分析対象音声のうち最も「同意らしい」、「不同意らしい」音声を抽出し特徴を検討する必要があるとしている。

須藤(2008)の研究から同意および不同意における韻律的特徴が見出せる可能性があるとわかった。しかし、個人差が大きく客観的な評価も併せる必要がある。音声を聞いて「同意している」「同意していない」を第3者が評価した結果を併せて検討するとどのような考察ができるのか興味が湧いた。また、須藤(2008)の研究において調査協力者は会話の状況を事前に理解している。したがって、同意・不同意を意識して発話していると考えられる。次回は引き続き同意と韻律情報の関連を分析した文献を読み、自分が研究する際の着目点を検討していく。